

雪

Yuki Tane News No.370

たねニュース

平成28年(2016年)11月1日発行(隔月1回1日発行)

- 疾病と損失について
- 冬場の子牛管理の注意点
- 草地の維持管理～牧草地を長持ちさせるための有機物散布量と散布時期～
- 旭川営業所通信 営業担当者 オススメ商品

一年間の御礼

日頃より弊社製・商品をご愛顧いただき、心から厚くお礼申し上げます。

平成28年を振り返りますと、今年の北海道は8月、9月に台風10号など4つの台風が上陸し、記録的な自然災害となり、河川の氾濫、家屋の倒壊、畜舎や農地の浸水など農業畜産分野に多大な被害をもたらし、道路、鉄道や橋などのインフラまで甚大な被害を受けました。

被害に遭われた方々には謹んでお見舞い申し上げます。

さて、全国の乳用牛飼養戸数は1万7000戸(前年比4.0%、700戸減)、飼養頭数は134万5000頭(1.9%、2万6000頭減)となり、北海道では飼養戸数6490戸(2.8%減)、飼養頭数78万5700頭(0.8%減)となっていますが、1戸当たりの飼養頭数は121.1頭(2.5頭増)となっており(農水省が7月5日発表した平成28年2月1日現在の畜産統計)、大規模法人等の組織経営体が誕生していると伺えます。このような中、北海道のインサイダーでの生乳生産状況は、生産主力となる2～4歳の乳牛頭数が前年を超えることから、9月までの累計では194.5万トンで前年比101.5%となっております。

平成28年10～12月期の配合飼料価格は、為替が6月に107円で推移しましたが現在は103円前後となり、米国産トウモロコシの豊作による価格の値下がりにより今年3度目の値下げとなりました。しかしながら値下げ後の配合飼料の価格は依然として高水準にあり、酪農経営を圧迫する環境下は変わらず、一層のコスト削

減が求められています。

当社と致しましては、これまでと同様に「酪農・畜産経営の安定は自給飼料の増産から」を旗印に良質な自給飼料生産に注力しており、今後も全道各地で取り組んでいる植生調査や植生改善に積極的に係わっていく所存です。

酪農・畜産の生産者の皆様が日々目指すところは、いかに消費者に受け入れられ、かつ喜ばれる「良質な農畜産物」を「効率よくかつ安定的に生産供給するか」にあり、当社の役割は農業畜産資材、農業技術を生産者の皆様へいかに提供できるかと考えます。

今年は台風により倒伏したとうもろこしサイレージの調整を余儀なくされ、品質低下及び二次発酵が予想されます。給与時には採食量の低下等が懸念されますので弊社の最寄の営業所へご気楽にご相談頂ければ幸いです。

今後も本誌「雪たねニュース」を通して皆様のお役に立てる新しい技術情報や、製・商品のご紹介など一層の充実を図って参りますので、引き続きご愛読くださいますようお願い申し上げます。

今年も残すところ僅かになりましたが、弊社製・商品のご愛顧に感謝申し上げますとともに、平成29年の輝かしい新春をご家族ともども迎えられます事を心からご祈願申し上げます。

雪印種苗株式会社
取締役北海道統括支店長 白石 良太